

佐渡米通信

こめる

2024年 **11** 月号

発行日:2024年11月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

令和6年産米の集荷・検査状況

令和6年産コシヒカリの1等米比率は10月9日時点で54.6%となっており、現在格落ちの要因について分析を進めています。収穫前の長雨の影響もあり1週間から10日ほど作業が遅れたことで、前年同月に比べて集荷比率も低い状況です。今夏の米不足により民間業者からの直接集荷が増えているため、JA佐渡職員が生産者への出荷のお願いに奔走しています。

10月11日に佐渡米主要卸の方々に来島していただき、佐渡米販売懇談会で産地情勢の報告をさせて頂きました。「朱鷺と暮らす郷」コシヒカリ1等米を試食して頂き食味に関して好評価を頂きました。JA佐渡では、集荷比率を上げ安定的な出荷を維持出来るよう努めて参ります。

令和6年産の検査状況(10/9時点)		
品種	1等米比率	集荷比率
コシヒカリ	54.6%	44.3%
こしいぶき	82.6%	71.3%



卸先の方たちとの意見交換を行う様子

佐渡の米農家さんにインタビュー

新穂地区の服部洋介さんにインタビューさせて頂きました。服部さんは「朱鷺と暮らす郷」認証米コシヒカリ、新之助を合わせて約5ha作られています。お米作りを始めて20年になるそうですが、最初は会社勤めをしながら実父と一緒に田んぼ仕事をされていました。8年前に市の新規就農制度を利用して専業農家となり、現在はお米のことで一層一生懸命になれたとお話して下さいました。

お米作りを始めた頃は田んぼ経営のことや会社の仕事、家族のことと考えを巡らせる日々が続いたそうですが、そんな中でも家に帰ると娘さんの「おかえり」の一言に元気をもらいました頑張れたとのことでした。

服部さんが特に難しいと感じることは稲刈り前の水管理だそうです。稲刈り予定日に圃場が乾いていないとコンバインでの作業が困難になります。一方で早く乾かし過ぎると米の品質や収量に大きく影響を与えてしまうため判断が難しいところがあります。父から引き継いだことを基本とし営農指導員と相談をしながら農業を行っているそうです。

JA佐渡ではきめ細やかな営農指導を通して農業生産力の維持向上と農業経営支援に努めて参ります。



「美味しいお米を作りたい」と金北山を背に圃場を案内してくれた服部さん



画像提供/服部洋介様
水稻育苗のお手伝いをする娘さん



冬期の出荷に向けた育苗中の
学校給食用の野菜



新穂地区

適期刈取りで品質確保!

収穫後は
適切な乾燥・調製で
品質向上



コンバインで丁寧に刈り取る



ぬかるみがなく刈取りが順調に進んでいる様子

ふゆみずたんぼ
秋耕転
稲刈り
穂肥
中干し
水管理
田植え
苗づくり
春耕転
温湯消毒



facebook



instagram



JASADOTANBO